

ゆめ わらわ 夢 亭

菅波 茂

先月25日。ネパールの首都カトマンズの北西77キロで大地震が発生。建物崩壊によって圧死した人の数は1万人を超す可能性があり、被災者は既に280万人に及ぶという。この数の原因はカトマンズの密集した伝統的なレンガ造り建物の崩壊である。水道設備も下水設備も破壊。食料と水の不足に加えて不衛生。暑い5月に入り感染症発生の危険性が迫っている。この状況に拍車をかけるのは、カトマンズと周辺を結ぶ道路の山崩れなどによる封鎖。当初の唯一の外部との接点はカトマンズ国際空港だけ。道路の復旧が望まれる。AMD Aはネパールに療を行っている。

三つの医療機関を有している。首都カトマンズにはAMD Aクリニック。東部にはブータン難民救援から始まったダマック病院。南西部には毎日新聞読者の寄付から始まったシッタルタ母と子の病院。カトマンズでは多くのメンバーが教職員となっているトリブバン大学の救済活動と、AMD Aネパールクリニック備蓄医薬品を活用した各居住地での診療を行い、27日に仮設診療所を開設した。27日にはシッタルタ母と子の病院の医療チームが、震源地に近いゴルカ地域の村に4時間の車両移動の後、徒歩で3、6時間かけて入り巡回診療を行っている。

ネパール救援活動と南海トラフ地震へ教訓



ネパールへの支援活動について記者会見するAMD Aのメンバーら。北区内で4月30日

30日には、ダマック病院の医療チームが、支援の入っていないバグマテイ県シンドゥパールチョーク郡に向かい、カトマンズからのチームと合流して診療活動をしている。AMD A本部は地震発生翌日の26日に、調査員1人と看護師1人をカトマンズに向け派遣した。29日に第2次として医師、看護師各1人、30日に第3次として医師2人と看護師2人を派遣。5日には第4次として医師と看護師ら計4人の医療チームを派遣した。

は29日に出発。今年3月に災害支援協定を結んだ台湾ルーツの医療チームは1日に出発。合計すると200人以上となる。今後の計画は首都カトマンズに「AMD Aコーディネーションセンター」を設立。AMD A関係団体とGSPSP関係団体の救援活動を前向きに調整し、地震発生1カ月後には、緊急救援から復興支援に向けて切り替える。ローカルパートナーはトリブバン大学、ネパールの被災地では本来の被災者への適切な医療サービスが不十分となる。

AMD Aが事務局をし、希望が出ている。AMD Aが事務局をし、被災者を助ける活動をしている。刮目すべき。AMD Aグループ代表として、グルーブのネパールからの撤退はない。ネパール支部と共に進むことを言明したい。AMD Aグループ代表は「AMD A南海トラフ対応プラットフォーム」で、コーディネーションセンターは総社市内か香川丸亀市内に設立予定である。皆様のご理解とご支援をお願いできれば幸いです。